

カワサキ★U18 レポート

vol.2

川崎市では、市をもっと良くするために、子どもたちが中心になって話し合う「川崎市子ども会議」を開催しています。子ども会議では、1年間のテーマを決めて定例会議で話し合いを行っていますが、「カワサキ★U18」と題して、いろいろな子どもとの話し合い、さらには大人との話し合いを通してまとめた意見を、市長に伝える活動も行っています。今回は11月のカワサキ★U18(子どもと大人の話し合い)の様子を中心にご紹介します。

※7月までの活動の様子はvol.1に掲載しています。

8/2
8/3

川崎市子ども会議 夏合宿 「被災体験」

宮前区の青少年の家で行った夏合宿で暗闇での避難体験などを行いました。



9/16

川崎市子ども会議 「そなエリア東京」見学

子どもたちの発案で防災体験学習施設「そなエリア東京」の見学を行いました。

9/29
10/6
10/20
11/4

川崎市子ども会議 定例会議 「子ども視点で地震のそなえとして必要なことは？」

7月21日に開催したカワサキ★U18の意見を分類したり、意見を追加するなど、整理を行いました。

また、整理した意見の中で特に大切だと思うものについてさらに深く掘り下げ、11月17日のカワサキ★U18で大人と意見交換したいテーマについて次のように決定しました。

テーマ	テーマを選んだ理由
<A> いろいろな 防災の情報をもっと知るきっかけ があるといいな	● いろいろな防災情報が発信されているのに、知る機会がなかったり、内容が分からなかったりするから ● 意識的に体験したり知ったりする機会を作ること、危機感や自分で何とかするという覚悟が生まれるから
 いざというとき、 近所の大人に頼ったり、一緒に協力したり できるようになるといいな	● 子どもが一人でいるときでも、頼れる大人がいると安心だから ● どのように行動すればよいか、分からなくなってしまうかもしれないから
<C> 家族とも防災のことについて話すきっかけ がほしいな	● 家族も忙しくて、ゆっくり話し合いする時間がなかなかとれないから ● 地震が起こったら、家族と連絡がとれない、会えないかもしれないから
<D> 子どもが少しでも過ごしやすい避難所 になるといいな	● 災害時に避難所で子どもの権利が守られるのか心配だから(例えば、子どもにちゃんとご飯が配られるのか、弱い者いじめはないか、ストレスの発散はできるのか 等)

カワサキ☆U18 「地震のそなえについて子どもと大人の話し合い」

定例会議で取りまとめた4つのテーマについて、川崎市子ども会議子ども委員に加え、公募で集まった子どもたちと、地域で防災や減災に関する取組などを行う大人で話し合いを行いました。

テーマごとに4つのグループに分かれて、子どもも大人も一緒になってさまざまな意見を出し合いました。



【当日の主な意見】

テーマ＜A＞ いろいろな防災の情報をもっと知るきっかけがあるといいな

●防災の情報を知るきっかけのアイデア等

子どもの意見

- ・ 給食の時、校内放送で防災情報を流す。
- ・ 学校の掲示板に防災の情報を載せる。
- ・ 防災クイズのポイントを「TEKTEK」で使えるようにする。
- ・ ハザードマップを見ても、理解できない。

大人の意見

- ・ 町内会では、防災訓練の情報を各家庭に回覧している。
- ・ 自分だけの防災マップを作ってはどうか(自分が関係するところに絞ったマップ)。

●地域のイベント等への参加

子どもの意見

- ・ 防災イベントがあることを知らなかった。
- ・ 紙の防災の情報が回覧されてもつまらないと捨てられる。
- ・ 親が情報を見ていると自分も見る。
- ・ 地域で実際の避難所の体験会をする。
- ・ 地震とかに興味がない人は体験会に行かないので面白くする工夫が必要。
- ・ ゲストティーチャーが必要ではないか。

大人の意見

- ・ 体育館での寝泊まり、公園のマンホールトイレ等の使用体験をしている自治体がある。
- ・ 実際に体験するといろいろな発見がある。
- ・ 避難所体験をしたいという話を町内会や学校に伝えたと実現できるのではないか。
- ・ 電気が通じない、コンビニは使えないなどの状況がイメージできるようなモノが必要。

テーマ＜B＞ いざというとき、近所の大人に頼ったり、一緒に協力したりできるようになるといいな

●子どもと大人が知り合うきっかけのアイデア

子どもの意見

- ・ 町内会の祭りや回覧板
- ・ あいさつやコミュニケーション。子どもから声をかける(知らない大人が子どもに声を掛けると警戒する)。
- ・ 子ども同士が仲良くなないと、親も仲良くなれない。

大人の意見

- ・ 登下校やお祭りなどで子どもに関わる機会を増やす。
- ・ 子ども向けイベントの企画などに子どもが参加する。
- ・ 子どもが参加しやすいイベントをつくる。
- ・ イベントがあることをもっと伝える。

●子どもが参加したいと思うイベントと大人ができそうなこと

子どもの意見

- ・ 運動会、遊び、料理
- ・ 同じ学年の友達に参加しているイベント
- ・ 学校を会場にしたイベント(安心)
- ・ まちの課題解決
- ・ 防災訓練に参加する子どもは珍しいと思われたいようにしてほしい。

大人の意見

- ・ 授業の中で町内会のイベントをする。
- ・ 一緒に「火の用心」の呼びかけ
- ・ 子どもが先導する避難体験・避難所運営体験
- ・ 子どもとまち歩きし災害準備をチェックする。
- ・ まちの困りごとを子どもと話す。
- ・ 子どもと一緒にイベント企画を考える。

●イベントを知ることができるきっかけのアイデア

子どもの意見

- ・ 参加したらお菓子がもらえる。
- ・ 写真等が掲載されているチラシ

大人の意見

- ・ 町内会の掲示板、YouTube、X(Twitter)、ホームページ、口コミ

テーマ<C> 家族とも防災のことについて話すきっかけがほしいな

●家族と防災について話すきっかけのアイデア

子どもの意見

- ・ 親子参加型の楽しい防災イベント
- ・ 授業参観で親も巻き込んでみる。
- ・ 危機感を持てるイベントの定期開催(大きな地震から時間経つと危機感が低くなる)

大人の意見

- ・ イベントで起震車、煙体験が必要な場合は、消防署に相談するとよい。
- ・ 大人も防災の知識のアップデートが必要

●大人にも防災の知識を伝える方法

子どもの意見

- ・ 働いている場所で避難訓練をする。
- ・ 自分の知識を増やす(子どもが知識を増やせば大人はもっと準備しないといけない)。
- ・ 町内で大きな訓練を行う。
- ・ 学校で地域の人も呼んで避難訓練(学校で行うと地域の人も来やすい)
- ・ 実際に被災体験をやってみる。

大人の意見

- ・ 家で被災体験はやってみるとよい。
- ・ 防災訓練などで実際に体験しないと想像力が働かない。話し合ってみることが大事。
- ・ 授業参観で地域を巻き込む避難訓練を行うと家族で話し合うきっかけになる。
- ・ 防災の日や避難訓練などを学校に広報できるとよい。

●家族で話し合うこと

子どもの意見

- ・ 集合場所
- ・ 避難場所、避難経路
- ・ 防災グッズの場所
- ・ 災害用伝言ダイヤルの番号
- ・ 防災グッズの中に(発災後)3日間の予定を書いておく。
- ・ まずは大人も子どもも知識を身に付けることが必要。

大人の意見

- ・ 避難所に集まりすぎると混乱する。家の外に行くべきか、行かないべきか。大人もよくわかっていないことがある。
- ・ 大人が話し合う雰囲気でない場合、家の中にポスターを貼るとよい。
- ・ 大地震の場合、3日間は帰れないこともある。3日間は親不在を想定する必要がある。
- ・ 夜間にガラスが割れると困る。いらぬ靴等を置いておくと避難時に使える。

テーマ<D> 子どもが少しでも過ごしやすい避難所になるといいな

●子どもが過ごしやすい避難所に必要なこと

子どもの意見

- ・ 子どもたちが遊べる場所、集まれる場所
- ・ 子どもが意見を言いやすい環境
- ・ 嫌なことされず楽しく過ごせる場所
- ・ 勉強ができる場所
- ・ 屋外の運動スペース
- ・ プライベートが守られる。
- ・ いろいろな世代でコミュニケーションをとって考えることができる。
- ・ 子ども一人でも食事ができる。
- ・ 川崎市子ども会議で子どもが過ごしやすい避難所のチェックリストを作っているところ。

大人の意見

- ・ 大人は子どもの意見を聞いてくれるので提案してほしい。
- ・ チェックリストのような事前準備と災害が起こった時に必要なことを組み合わせていく。
- ・ 「子どもリーダー」が子どもと大人のパイプになる。
- ・ こどもの意見を受け止める体制を作る。
- ・ 子どもが助けを求められるようにする。心の相談ができる。
- ・ 子どもでも避難所の運営の手伝いをしたいことを伝えられるようにする。
- ・ 子どものみで避難している人向けの情報

●子どもが過ごしやすい避難所にするためのチェックリスト活用に必要なこと

子どもの意見

- ・ 子どもに任せるだけだと実現性が低い。子ども、行政、大人が連携できる仕組みが必要。
- ・ 大人だけではなく、市民みんなが同じ意識になることで実現性が高まる。
- ・ ①子どもが市民の視点から周りの人から変えていく、②市や運営の人の意識を変えていく、の2つの視点が必要。
- ・ 大人から子どもに意見を聞く、こども会議のような意見の汲み上げ、両方行うことでさらに幅広い子どもの意見が聞ける。
- ・ 自分から友達などに話すことで、同じ意見が集まって目立って大人に届くのではないかな。

大人の意見

- ・ チェックリストの共有。インターネットを利用して、リアルタイムで更新できるようにする。
- ・ 子ども、先生、家族、学校、自治体など、大人や子どもにも共有する。
- ・ 避難所運営会議に共有する。
- ・ 地域の集まりなどに子どもが参加して、子どもの視点を取り入れてもらえるようにする。
- ・ 仕組みを作るため話し合いと実践を同時並行で行う。
- ・ 市のバックアップ。民間からも情報発信を繰り返していく。
- ・ 子どもからも声を出してほしい。子どもがどういうことができるとも言えるように。

●子どもたち自身ができること

子どもの意見

- ・ 課題を発表する授業で、今回のことを発表して知ってもらおう。
- ・ 友達や親に話す(PTAとかにつながるかも)。
- ・ 新聞係なので新聞に記事を書く。
- ・ 給食の時間に校長先生と話せる機会があるので、その時に話す。

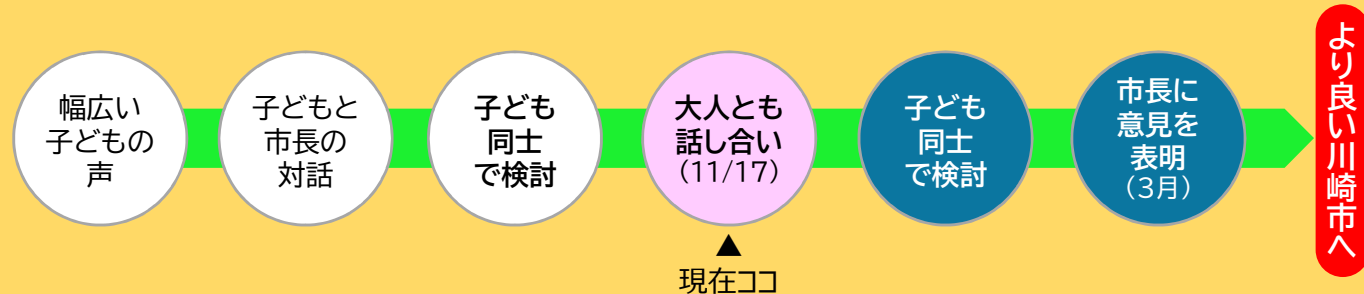




カワサキ☆U18に参加していただいた皆さん、ありがとうございました！

今後の予定

川崎市子ども会議の定例会議で、「子どもが考える地震のそなえ」について、意見の整理や絞り込みなどを行い、3月に市長に子どもの意見を伝える予定です。



トピックス

令和5年度のテーマ「デジタル技術でかなえるミライの学校スタイル」について、1年間かけてまとめた子どもの意見を市長に伝えた結果、子どもたちの提案が実現しました！

提案

GIGA端末には、ウェブの閲覧に一部制限がかかっているけど、必要なときに必要なところだけ、閲覧希望を伝える方法がほしい！

実現！

学校活動に必要なページは 閲覧できるよう
リクエストを出せるようになりました！



<問い合わせ> 川崎市教育委員会事務局 生涯学習部 地域教育推進課
TEL 044-200-3565
メール 88chiiki@city.kawasaki.jp